

技術系リーダーのための『技術マネジメント』実践講座

～ ものづくり企業のR&D現場を担うリーダーが
身につけるべきマネジメント能力とは ～

【開催要領】 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日時▶ 2018年 7月2日(月) 13:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京: 麹町)

【ご参加頂きたい方】

製造業の経営者、技術・開発部門長・マネージャー・リーダー、技術者・研究者、技術・開発企画スタッフ特に、下記の課題認識をお持ちの方

- ・リーダー、マネージャーとして、実践的な技術マネジメントを学びたい
- ・R&D現場の生産性を高めたい。現場のマネジメントを変えたい・進化させたい
- ・R&Dを引っ張る現場のリーダー、マネージャーを育てたい
- ・R&D向けのリーダー、マネージャー教育を実施したい

講師 株式会社ケミストリーキューブ 代表取締役 平木肇 氏



講師紹介
92年筑波大学を卒業、シャープ(株)入社。エンジニアとして先端電子デバイスの研究開発・製品開発・生産技術開発に取り組む。通産省(当時)主幹の次世代研究プロジェクトに参画。99年(株)日本能率協会コンサルティング入社。14年間にわたり、技術経営(MOT)、イノベーションマネジメント、研究開発(R&D)マネジメントを主領域としたコンサルティングに従事。2014年(株)ケミストリーキューブ設立。“技術人材の知恵を、価値を創り出す力に変える”をコンセプトとして、ものづくり企業・技術系企業の技術力・価値創造力の強化と人材の開発を支援している。

【申込方法】 当会ホームページ(https://www.bri.or.jp)からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	34,560円(本体価格 32,000円)	一般	37,800円(本体価格 35,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

181267-1010(※) 『技術マネジメント』実践講座

ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 属 職		
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当者宛E-mailからもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間～10日前まで)に受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認ください。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/民秋・川守田 E-mail:tamiaki@bri.or.jp

・プログラム・

■開催にあたって■

イノベーションの時代において、新たな価値と技術の創造を担う中核としてR&Dへの期待が高まる中、現場を担うリーダーのマネジメント能力をいかに高めるかは各社の重要な課題となっています。技術系リーダーが身につけるべき基本的なマネジメント能力として、チームマネジメント、プロジェクトマネジメント、技術マネジメントの3つが挙げられますが、なかでも技術マネジメント力の向上は、ものづくり企業における最大の経営資源である技術の蓄積と活用の成否を左右する重要な課題です。本セミナーでは、R&D現場を担うリーダーの技術マネジメント力の向上をテーマに、技術マネジメントの巧拙の鍵を握る「技術の見える化」を核にした実践的なフレームワークについて事例を交えて解説します。

1. 技術マネジメントのコンセプト

- (1) リーダーとは、担当者の延長線上ではない
- (2) リーダーの仕事は現場の経営(マネジメント)
- (3) マネジメントとは実践の科学
- (4) 技術は、ものづくり企業の最大の資源
- (5) 技術マネジメントの2つの観点 ～「現在を変える」と「未来をつくる」～
- (6) 技術マネジメントの鍵は「技術のいかに見える化するか」

2. 技術をいかに見える化するか ～技術の構造化手法～

- (1) 技術の棚卸の誤解 ～役に立たない要素技術リスト
- (2) 技術はなぜマネジメントしにくいのか ～技術の多義性～
- (3) 技術をどう捉えるか ～技術の5階層モデル～
- (4) 技術と技能 ～ものづくりの技を構成する2つの要素～
- (5) 技術の可視化の鍵は「構造化」
- (6) 顧客価値を起点とした技術の構造化手法(アイマップ)
- (7) 技術を3つの機能で記述する ～目的機能・基本機能・技術機能～
- (8) 目的機能をいかに設定するかが「見える化」の鍵

3. 「現在を変える」ためのフレームワーク

- (1) 技術マネジメントの基本単位を変える
- (2) 点(要素技術)のマネジメントから面(技術群)のマネジメントへ
- (3) 分野・組織の壁を越えた連携を仕掛ける
- (4) コア技術をどう定義するか
- (5) 知財戦略とは特許戦略だけではない
- (6) 現場のための知財戦略の基本指針

4. 「未来をつくる」ためのフレームワーク

- (1) イノベーションへむけた3つのアプローチ ～価値の革新、技術の展開、技術の新化～
- (2) 「価値の革新」の実践ポイント
- (3) 「技術の展開」の実践ポイント
- (4) 「技術の深化」の実践ポイント
- (5) 思考プロセスの基本は「仮説検証」
- (6) 大切にしたい7つのマインド
- (7) 新しい価値を生み出す仕事を日常にする

5. 実践事例の紹介

※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。
※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで
2種類のセミナーをご案内しております。